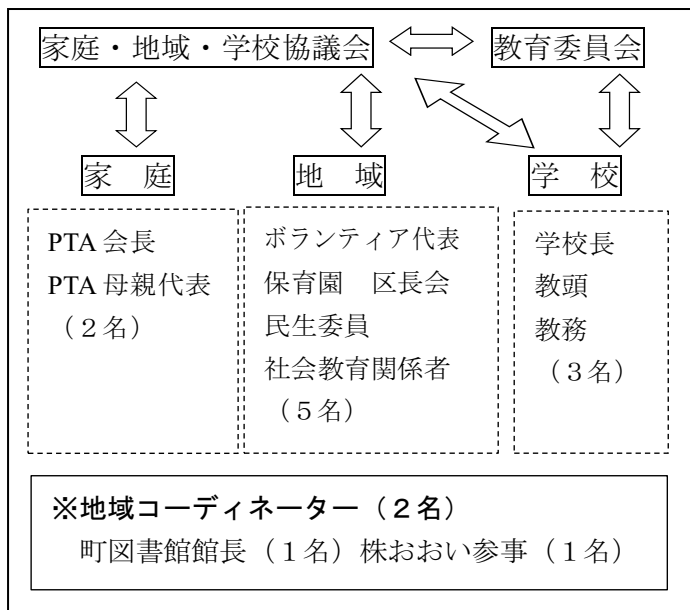


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ※開催回数 (年間2回)
- ※開催日程 (前期・後期末1回)
- ※協議内容
 - ・ 学校生活アンケートについて
 - ・ 子どもの様子
 - ・ 安全安心な学校づくり
 - ・ ボランティアの活用
 - ・ 地域と進める体験推進事業の進捗状況

(3) 協議会における成果と課題

- 昨年度の協議会での提案を生かし、学校公開の回数を増やした。その結果、保護者や委員からのご意見をたくさんいただくことができた。
- 委員の高齢化に伴い、学校に足を運ぶこと自体が難しくなっていることが課題として挙げられる。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

本郷小学校では、ふるさと「おおい町」に誇りと愛着を持つ子どもを育てたいと考えている。そのため、町の特産物である“シイタケ”を題材として取り上げ、収穫やその調理方法についての調査・体験活動に取り組んできた。一連の活動を通して、特産物のみならず、特産物を通して見たふるさとの未来について気づき、思いを馳せる機会としたいとも考えた。

今年度は特に、この活動において必要な情報を主体的に収集・選択・整理し、自分の考えを持つとともに、その考えや思いを表現できることをねらいに取組を進めてきた。

(2) 活動の実際

おおい町の特産物であるシイタケは県内外の方々から人気が高い。しかし、私たちのまわりではシイタケが苦手であるという児童が多いのも事実である。地元の方々を講師に、自分たちでシイタケを栽培したり、料理を工夫したり、生産・販売についても調査したりして、おおい町特産のシイタケに愛着を持ち、全員が「シイタケ大好き」と感じられることを目的に活動を行った。

① きのか栽培体験学習

おおい町きのこの森きのこのセンターに於いて、シイタケ教室を行った。まず、シイタケについての説明を聞いた。原木に種駒を植えてシイタケを発生させるものと、菌床で育てるものが

(様式3)

あることを教えてもらった。その後、椎茸栽培の現場を見学し、原木にドリルで穴をあけて種の植えこみ作業を体験させてもらった。

また、学校に菌床シイタケを預かり、育成・観察を続け、菌床から育ったしいたけを収穫する体験を行った。

② きのこと工場の見学

5年生の保護者の中に、シイタケ栽培を行っている方がおられる。

生産から販売までを手がけておられる現場に訪問させてもらい、栽培の実際を見せてもらい、貴重なお話もいただいた。



③ シイタケを使った料理

しいたけをどのように活用していくか話し合い、シイタケが苦手な人でも食べられるシイタケ料理を作る活動を行った。美味しく食べるための工夫を考え、本やインターネットなどを使って意欲的に調べ、レシピを作成した。調理実習では、「おおい町食いいきいき隊」をはじめ、たくさんの方々からの支援を受けながら、それぞれのアイデアシイタケ料理を作ることができた。



④ きのことオブジェ制作

きのこの森のきのこのものしり館において、世界のきのこを知る学習を行った。また、児童の発案により、“きのこが特産物の町”のイメージを広めるため、様々な場所にきのこのオブジェを置くことを目的に、地域の土を使った焼き物による「きのこオブジェ制作」を行い、きのこのみならず、地域への愛着を深めた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

コーディネーターは、きのこ栽培に大変詳しい方であり、地域のキノコアドバイザーとして活躍しておられる。この活動の目的から内容、課題等全行程を把握しておられるので、児童のみならず、教職員にも活動の全過程でアドバイスをたくさんいただくことができた。

(4) 特に工夫した事項

- ① 原木への植菌から収穫、それを使った調理・消費まで一通りの体験ができるようプログラムを工夫した。
- ② きのこと栽培・販売・調理など、それぞれの専門家からのアドバイスを元に活動内容を決定した。

3 成果と課題

特産物の栽培から調理・消費までを調査・体験し、特産物について関心を高め、多くの知識を得ることができた。

さらにこの活動を元に、ふるさとの伝承料理を調べたり実際に調理したりすることで、食生活についても振り返り、これからの食生活について考えることができた。

今年度で本事業は終了となるが、活動を精選し、引き続き地域の学習として「シイタケ学習」を継続していく予定である。